

中野 力 氏 学位審査結果の要旨

主査：高橋伯天

副査：松田博子、松田公志

血圧（BP）値が臓器障害や生命予後におよぼすリスク評価は、これまで主としてその平均値をもってなされてきた。近年、平均血圧値以外にも外来受診時の血圧変動性(visit-to-visit BP variability : VVBPV)も脳卒中や虚血性心疾患に対する有意な予測因子であることが報告されている。本研究では慢性腎臓病（chronic kidney disease: CKD）患者を対象に、外来受診時の血圧変動性がCKDの病態におよぼす影響について検討している。

腎機能の指標として推算糸球体濾過量（eGFR）を、血管内皮機能の指標として血流依存性血管拡張反応（flow-mediated dilatation: FMD）を測定し、血圧変動性との関連を統計的に解析したところ、VVBPVは他の交絡因子による補正後も、eGFR および FMD と負の相関を示すことを明らかにした。すなわち、CKD患者においては血圧変動性と腎機能および血管内皮機能が密接に関連することを明らかにした。

本研究はVVBPVがCKD患者の病態を側面から知る指標となりうること、また、VVBPVを減少させる治療法がCKD患者の予後を改善させる方向性を明らかにしたもので、学位に価する研究と評価する。